

教育研究上の目的

幼児教育学科は、「子どもから学ぶ、子どもとともに育つ」（対象への敬意と尊重、共生と協働）という基本姿勢をもった保育者を養成することを教育研究上の主たる目的とする。人間理解力と関係発展力に富み、創造的保育実践力を備えた人材、地域社会の中でさまざまな役割を担って人間の成長発達を支え、ともに未来を切り拓いていこうとする人材の育成を図る。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

幼児教育学科では、教育研究上の目的を達成するため、次の学生像を人材育成の方針とする。

1. 子どもの心理や発達特性および保育・教育を構成する主要な理論を理解し、それに応じた保育を構築し、実践することができる
2. 子どもの表現を読みとる豊かな感性をもち、子どもと響きあえる表現力を身につける
3. 子どもと保育・教育にかかわる課題を設定し自ら探究する意欲とその基礎となる知識・技能をもつ

そのうえで、次の資質および能力を有している者に「学士（教育学）」の学位を授与する。

①知識・技能

1. 子どもの心理や発達特性を理解し、説明できる
2. 保育を構成する主要な理論を理解し、説明できる
3. 保育実践や保育内容にかかわる実態を把握して実践することができる
4. 指導計画の内容を理解し、子どもの実態を踏まえた指導計画を作成し、実践できる
5. 保護者・地域・他の専門職との連携の重要性や役割分担について理解し、説明できる

②思考力・判断力・表現力

1. 子どもの人権を尊重し子どもの立場にたって考え、行動することができる
2. 実践の中で状況に即応した判断ができる
3. 学習した知識に基づいて思考することができ、保育者として判断することができる
4. 保育者に求められる感性を有し、表現できる
5. 自分の考えを工夫してわかりやすく伝えることができる

③主体性・多様性・協働性

1. 「子どもから学ぶ、子どもとともに育つ」という基本姿勢を備えた実践ができる
2. 子どもの健やかな成長発達を積極的に支えることができる
3. 保育・教育や子どもに関わる社会的事象に関心を持って課題解決に向かうことができる
4. 公平かつ受容的・共感的な態度で関わるができる
5. 自らの問題意識を持ち、課題に取り組むことができる

幼児教育学科では、保育者養成を基盤とし、広く人間理解力と関係発展力に富み、創造力を備えた人材を養うカリキュラムを編成する。

1. 学びの基礎となる「基礎」領域では、育つものとしての子どもに対する知識・技能を習得し、子どもの育ちを支える保育者としての基本姿勢を学ぶ
2. 「保育と教育」「保育内容の理解と方法」「発達と臨床」「生活と福祉」「健康と運動」の5つの領域では、各領域の専門的な知識と技能の習得を図り、質の高い保育・教育を構想すると共に、全人的な人間理解をめざす
3. 子どもの豊かな表現をはぐくむことをめざし、学習者自身の感性豊かな表現力を高める
4. 実習関連科目である「フィールドワーク（実習）」領域では、これまでの学びを統合し、子どもの主体性と自発性を尊重しつつ、保育・教育を構築していく実践力を育成する

各領域の学修過程は、次の通りとする。

◆基礎

1. 多領域の専門的見地から講義を行い、持たせる
2. 子どもと保育の実態を実習を通して理解し理解したことを踏まえ、保育記録と話し合いおよびプレゼンテーションにより自らの子ども理解を深める、深めさせる
3. 視覚、聴覚、嗅覚、触覚、味覚を中心に感覚器官を相互的に発揮させ、構内の自然との対話を基軸にして自己を見つめ開放し、乳幼児の感性に共鳴できる基盤を身につけさせる
4. 子どもと保育・教育にかかわる研究を進めていく上で必要となる研究理論と手法について学ばせ、卒業研究等の研究課題に取り組むための基礎力を養う

◆保育と教育

1. 保育および教育に関する基本的な知識を獲得し、調べ学習や事例検討、保育観察を通して、保育者に必要な資質を習得させる
2. 障害児を含む特別な配慮を必要とする子どもと家庭に対する理解及び保育・支援に関する基礎的知識を習得させ、実際のかかわりを通して、子どもの指導や援助に関する力量を養う
3. 乳児保育や多文化保育などについての理解を通して、多様な保育形態や保育対象に対応する保育実践力を涵養する
4. 子ども理解のための知識や考え方、基礎的態度を育成する。さらに、子どもを理解するための具体的な方法を習得させる
5. 保育を計画し、指導方法を子どもの実態を踏まえて選択し、実践するための知識と技能を獲得し、自らの実践を通して評価する力量を育成する
6. 子どもと保育に関する今日的課題に関心を持たせ、その分野に関する専門的知識を活用しながら、問題意識を持った発展的学習に取り組ませる

◆保育内容の理解と方法

1. 領域それぞれの学問的な背景および、指導の基盤となる専門的事項についての知識・技能を習得させる
2. 保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）について、5領域のねらいや内容を踏まえ、領域ごとの保育内容の指導法で実践すべき力を育成する
3. 保育内容の5領域を総合的に捉え、具体的な援助を構想することを可能にする

◆発達と臨床

1. 子どもの心身の発達の過程および特徴や学習に関する基礎的知識を習得させ、発達を踏まえた学習を支える援助についての基礎的な考え方を理解させる
2. 生涯発達に関する心理学的な知識を習得させ、家族・家庭の意義や機能および、発達の観点から親子・家族関係

や、子育て家庭をめぐる現代の社会的状況および子どもの精神的健康とその課題について学ばせる

3. 子どもと親に関する心理的支援に関心を持ち持たせ、専門的知識を活用しながらカウンセリングマインドの必要性を認識させ、自己課題を踏まえて発展的に学ばせる
4. 子どもと保育に関する今日的課題に関心を持たせ、その分野に関する専門的知識を活用しながら、問題意識を持った発展的学習に取り組ませる

◆生活と福祉

1. 子どもとその家庭の現状と変遷に関する基本的知識を習得させ、事例検討や視聴覚教材を用いて、幅広く子どもと家族にかかわる課題について考える力を涵養する
2. 保護者に関する支援について事例に基づいてさせ、保育者に求められる職務や資質・技能を習得させる
3. 子どもと保育に関する今日的課題に関心を持たせ、その分野に関する専門的知識を活用しながら、問題意識を持った発展的学習に取り組ませる

◆健康と運動

1. 子どもの健康と安全に関する基礎的知識と技能を習得させ、保育場面で必要な援助を選択して実行する力を育成する
2. 子どもの栄養や食育に関する基礎的知識を習得させ、更に今日的課題に取り組ませる
3. 子どもの運動指導に関する環境設定及び援助方法について実践を通して知識と技能を高める
4. 子どもと保育に関する今日的課題に関心を持たせ、その分野に関する専門的知識を活用しながら、問題意識を持った発展的学習に取り組ませる

◆表現と文化

1. 子どもの表現を多面的に捉えるために、音楽表現、造形表現、身体表現に関わる専門的知識・技能を習得させる。多様な形態の授業を通して、自ら表現する力や、子どもの表現を受け止め、育む保育者としての感性を養う
2. 子どもと保育・教育に関する今日的課題に関心を持ちたせ、その分野に関する専門的知識を活用しながら、各自が問題意識を持って発展的学習に取り組む取り組ませる

◆フィールドワーク（実習）

1. 幼稚園・保育所・認定こども園の保育者の専門性を理解し、保育実践を通して具体的な事象に即応する力を育成する
2. 児童福祉施設（保育所以外）の保育士の専門性を理解し、保育実践を通して具体的な事象に即応する力を育成する
3. 子どもと保育に関する今日的課題に関心を持たせ、その分野に関する専門的知識を活用しながら、問題意識を持った発展的学習に取り組ませる

◆総合

1. 教職カルテに基づき、自らの4年間の学習を振り返ることで学習課題を明確にし、保育者となる上で必要な資質を確認することができるよう促す
2. めざす保育者像を明確に形成するとともに、自らの課題解決と更なる知識・技能の習得に努めることを促す
3. 子どもと保育に関する今日的課題に関心を持たせ、その分野に関する専門的知識を活用しながら、問題意識を持った発展的学習に取り組ませる

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

幼児教育学科では、次のような学生を求める。

1. 基礎的な学力を身につけている
2. 豊かな感性をもっている
3. 人と協力して物事を進めていくことができ、基本的な社会性を備えている
4. 子どもと共に学び、子どもと共に成長しようとする意欲がある

また、入学後の学修の基盤として、次の知識や能力が求められる。

①知識・技能

1. 人間教育に必要な幅広い教養を身につけるために、高校までのすべての教科に関する基礎的な知識・技能を身につけている
2. 自分の考えを的確に文章で表現する力を身につけている
3. 幼児教育学科の教育理念を理解している

②思考力・判断力・表現力

1. テーマにそって論理的に考えることができる
2. 他者の意見を受け入れながら自分の意見も伝えることができる
3. 自分の考えを文章で表現することができる

③主体性・多様性・協働性

1. 子どもや幼児教育について自ら学ぼうとする意欲をもっている
2. 人と協力をして物事を進めていく力を身につけている
3. 基本的な社会性（基本的な生活習慣や態度、言葉遣い）を身につけている